

ISSN 2434-0138

2023年7月26日発行

GENSEI-SEIBUTSU

原生生物

第6巻 第1号 (2023)

日本原生生物学会
Japan Society of Protistology
<http://protistology.jp>

目次

第56回日本原生生物学会大会・第82回日本寄生虫学会東日本支部大会・ 第74回日本衛生動物学会東日本支部大会 合同大会 (PPEZ-2023) のご案内 永宗 喜三郎 (国立感染症研究所)	1
学会活性会員からのお知らせ 保科 亮 (株式会社ノベルジェン)	2
若手の会 通信	3
本会記事	5
事務局からのお知らせ 庶務 福田 康弘 (東北大学) ・庶務補佐 杉浦 真由美 (奈良女子大学)	12
編集委員会からのお知らせ 「原生生物」担当 内之宮 光紀 (電力中央研究所)	12



第56回日本原生生物学会大会・第82回日本寄生虫学会東日本支部大会・ 第74回日本衛生動物学会東日本支部大会 合同大会 (PPEZ-2023) のご案内

大会長 永宗 喜三郎 (国立感染症研究所)

第56回日本原生生物学会大会は、日本寄生虫学会東日本支部大会、日本衛生動物学会東日本支部大会との合同大会 (PPEZ-2023, Joint Conference of Protistology, Parasitology, and Medical Entomology and Zoology) として10月20日(金)から22日(日)に、国立感染症研究所戸山庁舎から徒歩2分 (Google Map による) の戸山サンライズにて開催する予定です。長い間我々を悩ませてきた COVID-19 も本年5月をもって5類感染症へと移行し、一区切りがつかしました。このタイミングで多くの参加者との再会、出会いを通じてひとつでも多くの共同研究への流れができれば、世話人として大変うれしく思います。また、参加者の利便性を考慮し、聴講についてはオンライン参加も可能なハイブリッド開催とする予定ですが、交流の活性化を期待して、発表は現地のみ限定致します。懇親会も復活の予定ですのでぜひ会場までお越し下さい。

大会の詳細は、大会 HP にてお知らせする予定です (<https://sites.google.com/view/ppez-2023>)。特別講演は6題を予定しています。各学会の守備範囲に「近いが異なる」領域の講師への依頼を計画中です。楽しみにお待ちしております。また、若手の会からは、「原生生物学会と寄生虫学会、衛生動物学会の若手研究者交流会」として、前半にそれぞれの研究発表と自己紹介を行い、後半で生物の観察会をしたいとのご提案をいただきました。可能な限りで自分が研究している試料を持ってきてもらい、研究内容を聞いた後に、それぞれの試料を実際に観察し、研究についても議論したいとのこと。会員どうしの交流だけでなく他学会の参加者とも交流できる、またとない、よい機会になるのではないかと期待しています。

普段あまり交流のない3学会会員の出会いの場として、多くの皆様にご参加いただけますようお願い申し上げます。

1. 会期

2023年10月20日～22日

20日(金): 評議員会, 編集委員会, 若手の会, ポスター発表

21日(土): 特別講演, 口頭発表, 総会

22日(日): 特別講演, 口頭発表

予定は変更する可能性があります。最新の情報は下記の大会 HP でお知らせいたします。

PPEEZ-2023 ホームページ

(<https://sites.google.com/view/ppez-2023>)

2. 会場

戸山サンライズ (<https://www.normanet.ne.jp/~ww100006/>) 大研修室。ポスター発表は大会議室を

予定

各種会議には国立感染症研究所戸山庁舎の会議室も使用します。詳細は大会 HP にてお知らせ致します。特別講演と口頭発表はオンライン参加も可能なハイブリッド開催とする予定ですが、発表はオンサイトのみに限定致します。

3. 発表形式

口頭発表およびポスター発表

発表演題数により発表方法の変更をお願いする場合があります。

4. 参加申し込み

要旨提出と参加申し込みは、7月末を目途に大会 HP 上で受付を開始します。締め切りは2023年9月15日(金)を予定しています。締め切りの延長は行いませんのでお気を付け下さい。

5. 大会参加費等

大会参加費、懇親会費等は、当日会場にてお支払いください。オンライン参加の方の参加費は事前に振込にさせていただく予定です。大会参加費、懇親会費等の金額は後日 HP にてお知らせ致します。

6. 昼食

周辺には早稲田大学があり、飲食店の数はそれなりにあると思います。ただ、スケジュールがタイトとなる可能性が高いので、希望者にはお弁当を手配する予定です。お弁当は事前に予約していただき、代金は当日会場にてお支払いください。

7. 懇親会

復活します。詳細は後日 HP にてお知らせ致します。

8. 宿泊

新宿、高田馬場などのホテルを各自でご予約ください。

9. アクセス

下記 URL をご覧ください。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/accessmap.html>

メイン会場は感染研戸山庁舎の2軒となりの戸山サンライズとなりますのでお気を付け下さい。お車での来場はできません。

10. 大会事務局

〒162-8640 東京都新宿区戸山 1-23-1 国立感染症研究所寄生動物部

第56回日本原生生物学会大会事務局 (担当: 八木田 健司)

学会活性化委員会からのお知らせ 委員長・保科 亮 (株式会社ノベルジェン)

日本原生生物学会は、岩国市マイクロ生物館と連携し、原生生物などのマイクロ生物および、これらの採集・培養・観察のための器具などの分譲サービスを行っています (学会活性化委員会内 準会員・生物分譲サービス WG)。WG から 2021 年度に 97 件の分譲をおこなった旨の報告がありました。詳細については次期大会にて

お知らせいたします。

原生生物学会には、学会の活性化につながるシンポジウム等のイベント活動を支援する予算があります。原生生物学会を PR できるような活動には支援を厭いませんので、どしどしご応募ください。

若手の会 通信

新会長および新役員挨拶

新会長挨拶

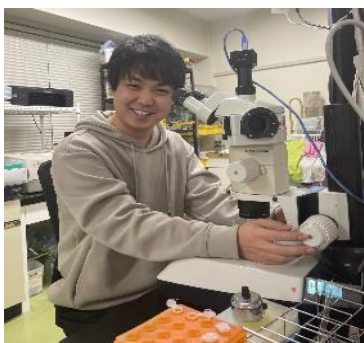
島田 雄斗 (生理学研究所)

この度は原生生物学会若手の会の会長に就任させていただきました島田雄斗です。私は 2023 年 5 月まで高知大学に研究員として所属し、繊毛虫コルポダ (*Colpoda*) を研究対象としていました。コルポダは水の干上がりといった環境の悪化を感知すると、乾燥耐性を有する休眠シストに形態を変化させ、環境の悪化から身を守っています。これまで私は、培養液の温度上昇によるシスト化の誘導機構について研究を行ってきました。2023 年 6 月からは生理学研究所に所属を移し、心機一転して研究活動に励んでいます。

私が原生生物を初めて見たのは小学生の時の自由研究です。川や池から汲んできた水を通信教材の付録の顕微鏡を用いて観察しました。初めて見た小さい生物にとっても感動したのを覚えています。ただ、動き回るゾウリムシ (*Paramecium*) を何とかして写真に残そうとした記憶もあります。子どもの頃に興味を抱いた原生生物を研究できていることに嬉しさを感じます。

また、私が若手の会に初めて参加したのは、2017 年 8 月に淡路島合宿です。6 年も前になります。そこでは、研究発表会と野外採集を行いました。研究発表会では多くの方が私の研究に興味を持ってくださり、たくさんの質問や助言を頂けてとても嬉しく思いました。また、野外採集では実際に自然に生息する原生生物を観察できて興奮しました。この若手の会合宿が、私が研究の世界に残るきっかけの一つになったと思います。

新生若手の会として、若手の研究者たちに、私がこれまで経験し、感じてきた原生生物の面白さ、研究の楽しさを伝えていきたいと思っています。



顕微鏡を覗き上機嫌な私 (島田)

新役員挨拶

島田 真帆 (島根大学)

島根大学大学院 D1 の島田真帆です。この度、若手の会副会長を務めさせていただくことになりました。私は高校時代からスピロストマム (*Spirostomum*) を用いた研究を始め、博士課程 1 年目の現在まで続けています。高校時代にはこの日本原生生物学会でも発表を行ったことがあり、7 年後に若手の会副会長を務めさ

せていただけることを大変嬉しく思っています。

高校時代は課題研究としてスピロストマムの重力走性について研究を行い、その後スピロストマムの再生能力に気づき、現在までスピロストマムの再生について研究を行ってきました。スピロストマムの研究を始めてから研究活動の魅力を感じ、研究活動を通して様々な先生方と出会えたり海外に研修旅行に行ったり、スピロストマムとの出会いは私の人生の大きなターニングポイントでした。幼少期から生き物が好きだった私ですが、スピロストマムと出会い、「生き物」の規模が広がり、生活の中で感じるワクワクも広がりました。

島根県に住むようになってから「ご縁」を意識するようになり、様々な場面で「ご縁」を感じるが増えました。高校時代にお世話になった学会の若手の会で副会長を務めさせていただけることも「ご縁」であると感じます。もちろんスピロストマムとの出会いも「ご縁」です。これらの「ご縁」を大切に、様々な活動に尽力させていただきたいと思っています。皆様ぜひよろしくお願ひいたします。

山本 桃花 (奈良女子大学)

今年度から原生生物若手の会の役員になりました、奈良女子大学大学院 M2 の山本桃花です。B4 のときは高知大学に在籍していました。現在は、ブレファリズマ (*Blepharisma*) の接合について研究しています。ブレファリズマは繊毛虫で、多くがピンク色のブレファリスミンという色素を持っています。杉浦研では 6 種、約 30 株のブレファリズマを培養していますが、それぞれ個性豊かで、サイズや色、形、接合のしやすさなどが違ってきます。よく研究室のメンバーと推しているブレファリズマ (通称: 押しブレ) について愛を語り合っています。ブレファリズマの接合型 (性別) には I 型と II 型があり、飢餓条件下で有性生殖 (接合) を行います。私は、ブレファリズマは勿論、原生生物の有性生殖という現象がすきです。この若手の会を通して原生生物についてたくさん勉強したり、それぞれの可愛らしさ・素晴らしさを世に広めていくお手伝いができればうれしいです。まだ分からないことも多いですが、会長をはじめ、みなさんと面白い企画を考えて、実行できるよう精一杯がんばりますので、よろしくお願ひいたします。



自作のブレファリズマグッズ (クリップとイラスト)

原生生物コラム

言語は面白いです

面田 彩馨 (神戸大学)

原生生物は英語で protist. じゃあフランス語は? ドイツ語は? 英語に近い言語だから protest みたいな感じかな. 予想はできても正解はわかりませんでした. そんな疑問から, 私は, Google 翻訳に protist と入力し, 他言語ではどのように表現するのか調べてみました.

フランス語 ————— protiste
 ドイツ語 ————— Protist
 スペイン語 ————— protista
 中国語 ————— 原生生物
 韓国語 ————— 원생생물
 アラビア語 ————— عفوي

アルファベットと似た文字を使用する言語は似たような綴りになる傾向がありました. Google の機械音声を聞く限り, 発音も似ていました. 一方, 全く違う文字を使う場合は, 綴りが違うだけでなく, 発音も違いました. 面白いです.

昨年度までに比べて, 今年度は私のキャンパスを訪れる短期留学生の数が増えたように感じます. しかし, 受け入れ研究室が違ると, なかなか話す機会もなく, 話す話題も浮かばないということに陥りがちです. 相手の母国語について尋ねることは, あなたに興味がありますよ, という小さな意思表示になって, 会話が弾むきっかけになるように思います. “I see that protist is written as 원생생물 in Korean. How is it pronounced?” 小さなきっかけを大切に, 今年度もたくさんの友達を作れますように!

活動報告

焦らずじっくり若手研究会!

越後谷 駿 (北海道大学)

毎年2回行われる若手研究会が恒例となってきました. 前回の開催は2023年3月4日, 卒論修論がひと段落した頃に行われました. 6つのラボから12名の参加

者が集まり, 原生生物に関する話題で活発な交流が生まれました. この研究会は原生生物学をテーマにしていますが, 参加者が扱っている生物はバラバラ, 分野も様々, まとまりがあるようで無いいつもの研究会でした. 発表の合間の休憩時間では, 近況報告や研究発表に基づいた雑談が展開され, 思わぬアイデアも生まれています. 雰囲気はゆるいものの, 研究発表自体は一度発表に使ったスライド資料を使用する参加者もあり, 質の高い研究会だと思います. オンラインとなり参加のハードルも低くなったので, 学部生の参加も歓迎です. 他大の先輩方と関わることで研究・進路についてラフに話せる良い機会になるかも?!

最後に, この報告記事を書いていて, 「あれ何の研究聞いたっけ? メッチャ話してたのは覚えているんだけどなあ」ってなりました笑. 細切れには思いだされても, 正直内容はあまり覚えていない笑. 大変失礼ながらこんなことを残してしまいましたが, こうやってゆるい雰囲気で, 継続的にオンラインで集まり, 人とつながることで分野違いの研究に触れられるっていいなと思いました. 研究内容を分かり合えるまでは長いですが, 焦らずゆっくり吸収していきたいです.



いつか何かやってくれるに違いない参加者たち (良い意味で)

2023年度 若手の会役員

会長: 島田 雄斗 (生理学研究所)
 副会長: 島田 真帆 (島根大学)
 会計: 面田 彩馨 (神戸大学)
 役員: 越後谷 駿 (北海道大学)
 山本 桃花 (奈良女子大学)

本会記事

2022年度 総会議事録

日 時：2022年9月2日(金) 16:15 ~ 17:40
会 場：〒184-8584 東京都小金井市梶野町3-7-2 法政大
学 小金井キャンパス マルチメディアホール

議事

I 会長挨拶

II 報告事項

1 庶務関係

杉浦 真由美 庶務補佐より、以下の報告があった。

イ. 会員の異動 (2022年8月22日現在)

(昨年報告数)

賛助会員	1団体	(1団体)
名誉会員	9名	(10名)
永年会員	13名	(12名)
一般会員	93名	(95名)
学生通常会員	39名	(43名)
学生1年会員	7名	(16名)
準会員	22名	(23名)
合計	184名	(200名)

新入会 12名, 退会 28名

ロ. 学会賞等の受賞者は、受賞後1年以内に総説または原著論文を本学会和文誌もしくは英文誌へ寄稿することが望まれる旨、学会賞等に関する細則へ追記されたことが説明された。

ハ. プライバシーポリシーが制定され、本学会HPへ掲載されたことが報告された。

ニ. 分譲サービスに関わるマイクロ生物館との連携協定の締結について、現在手続きを進めている旨説明があった。

ホ. 学生会員の年会費について、2023年度は通常通り年会費を徴収することが報告された。

ヘ. IX ECOP (European Congress of Protistology) への学生・若手研究者の参加支援について説明があった。

2 編集関係

島野 智之 英文誌編集長より、以下の報告があった。

イ. Journal of Protistology への投稿状況 (3報の投稿があり、2報が受理) について報告された。

ロ. Editorial board の設置について、以下の各氏に担当していただくことが決定した旨、報告があった。Judith Van Houten, The University of Vermont, US (細胞生物学); Jong Soo Park, Kyungpook National University, Korea (細胞生物学・環境微生物学); Shiroh Iwanaga, Osaka University, Japan (寄生虫学); Manfred Wanner, Brandenburg University of Technology, Germany (生態学)。

ハ. 英文誌編集委員会主催のABS 講習会の開催を予定していることが説明された。(2023年1月29日(日) 13時30分から14時30分まで開催した)

ニ. 英文誌編集委員会で決議された内容について説明があった (Zoobank ID の付与, ABS advisory editor の設置, 投稿規程の変更について)。

矢吹 彬憲 和文誌編集長より、以下の報告があった。

イ. 和文誌「原生生物」の発行状況 (5巻1号の発刊) と今後の発刊予定について報告があった。また、2022年の投稿状況について報告された。

3 その他

イ. 園部 誠司 学会賞等選考委員会委員長より、奨励賞に十亀 陽一郎 会員「繊毛虫 *Colpoda* の休眠シスト形成と環境ストレス耐性」および仲村 康秀 会員「単細胞動物プランクトン (ファエオダリア類・放散虫類) の生態・系統分類に関するフィールド研究」が選ばれたことが報告された。

ロ. 保科 亮 学会活性化委員会委員長より、以下の報告があった。

準会員の変動について、準会員制度の広報活動について、マイクロ生物館内「樋渡文庫」および学会HP内「柳生繊毛虫図鑑」の整備状況について、第55回日本原生生物学会活性化委員会企画シンポジウム「原生生物のジオラマ行動力学」の開催について、第6回原生生物学・共生生物学談話会 (共催:原生生物・寄生虫・進化セミナー) における事務局員の旅費助成について。

ハ. 園部 誠司 原生生物分譲サービスWG長より、分譲サービスのこれまでの経緯、現在の分譲サービス、そして分譲サービスに関する問題が説明され、これらの解決のために分譲サービスWGが設立されたことと、活性化委員会とは独立の委員会にすることを考えている旨の報告があった。また学会活性化委員会の決定として、分譲サービスの実績を年1回学会活性化委員会に報告することが述べられた。

ニ. 園部 誠司 国際委員より、新たな国際委員を ISOP へ連絡したことが報告された。また、IX European Congress of Protistology (ECOP) ならびに ICOP/ISOP/ISEP

2025 の告知があった。KSOP との合同大会について、開催可能性を検討中であると報告があった。また春本晃江 ACOP 会長より、2024 年にオーストラリアを候補地として次期 ACOP の開催が検討されていることが報告された。

ホ. 島野 智之 生物多様性会議委員より、日本分類学会連合第 21 回総会の報告 (DORA 署名に関する意識調査、研究力低下問題など) があった。また ABS 対策ワーキンググループへの協力について、各学会における ABS 対応の「見える化」が求められている旨、報告があった。

ヘ. 西上 幸範 ネットワーク委員長より、ネットワーク委員会の活動報告があった。内容は、編集委員会からの要請に応じたウェブページ上の学会関連情報の更新について、メーリングリストなど、メールサーバーの運営・管理についてであった。

ト. 細谷 浩史 学術会議担当委員より未来の研究戦略の公募について説明があった。

チ. 越後谷 駿 若手の会会長より、若手の会の 2022 年度活動報告と会計報告があった。活動内容としては、若手学生間の交流会や勉強会、年大会での原生物観察ブースの開設、若手の会 HP・和文誌「原生物」若手の会通信への記事掲載が報告された。

リ. 杉浦 真由美 庶務補佐より、事務年度、会計年度、会長・評議員・監事の任期の期間が異なっているため作業が煩雑になっており問題が生じていることが

報告され、学会運営にかかる期間について適した案を事務局内で検討中である旨の報告があった。

III 審議事項

1 会計関係

イ. 2022 年度会計決算報告および会計監査報告

岩本 政明 会計担当より 2022 年度の一般会計、特別会計 (国際交流基金)、特別会計 (基金)、特別会計 (月井雄二記念国際交流基金) について報告がなされた後、児玉 有紀、永宗 喜三郎 両監事による監査報告があり、承認された (賛成・承認: 過半数以上)。

ロ. 2023 年度予算案について

岩本 政明 会計担当より次年度の予算案について報告がなされた。特別会計について、国際学会への若手の助成 (10 名程度を想定) のうち、1 人を国際交流基金より支出し、他 9 名を月井 雄二記念国際交流基金から支出したい旨の提案があった。審議の結果、原案通り承認された (賛成・承認: 過半数以上)。

IV その他

1 次期大会について

イ. 永宗 喜三郎 会員より、次期 (2023 年、第 56 回大会) は、永宗 喜三郎 会員を大会長として、第 82 回日本寄生虫学会東日本支部との合同大会として国立感染症研究所戸山庁舎で開催予定であることが報告された。開催時期は 10 月頃に 2 日半程度を想定しており、ハイブリッド開催を予定していることも報告された。

2022 年度 日本原生生物学会一般会計決算報告

1. 収入の部

科 目	予算	決算
前年度繰越金	4,069,550	4,069,550
学会費	758,000	469,500*
寄附	-	-
雑収入	-	-
利息	11	22
計	4,827,561	4,539,072

*1: 22 年度会費納入率 51.7%

2. 支出の部

科 目	予算額	決算額
編集諸経費・謝金	100,000	57,200
学会活性化委員会経費	200,000	85,528
庶務諸経費・謝金	50,000	61,892
会計諸経費・謝金	10,000	1,560
大会補助費	200,000	216,068
学会賞等経費	40,000	0
若手の会助成金	50,000	0
日本分類学会連合分担金	10,000	10,000
日本分類学会連合会議旅費	50,000	0
通信費(サーバー利用料)	15,000	9,880
振替手数料	3,000	2,534
支出総計	728,000	444,662
次年度繰越金	4,099,561	4,094,410
計	4,827,561	4,539,072

2022 年度 日本原生生物学会特別会計(国際交流基金) 決算報告

1. 収入の部

科 目	予算	決算
前年度繰越金	497,712	497,712
寄附 (*1)	-	74,000
利息	2	4
計	497,714	571,716

*1: 芳賀 信幸名誉会員, 伊藤 章会員, 高木 由臣会員, 金田 良雅名誉会員, 見上 一幸会員, 高橋 三保子名誉会員

2. 支出の部

科 目	予算	決算
外国人招待者謝金	-	-
国際学会参加援助金	-	-
振込手数料	-	-
支出総計	0	0
次年度繰越金	497,714	571,716
計	497,714	571,716

2022 年度 日本原生生物学会特別会計(基金) 決算報告

1. 収入の部

科 目	予算	決算
前年度繰越金(定期預金)	1,049,168	1,049,168
寄附	-	-
利息	5	10
計	1,049,173	1,049,178

2. 支出の部

科 目	予算	決算
支出総計	0	0
次年度繰越金	1,049,173	1,049,178
計	1,049,173	1,049,178

2022 年度 日本原生生物学会特別会計(月井 雄二記念国際交流基金) 決算報告

1. 収入の部

科 目	予算	決算
前年度繰越金	9,248,474	9,248,474
寄附	-	-
利息	39	78
計	9,248,513	9,248,552

2. 支出の部

科 目	予算	決算
国際学会参加援助金	-	-
支出総計	0	0
次年度繰越金	9,248,513	9,248,552
計	9,248,513	9,248,552

2023 年度 日本原生生物学会特別会計（学会基金）予算案

2023 年度 日本原生生物学会一般会計予算案

1. 収入の部	
科 目	予算
前年度繰越金	4,094,410
学会費 (*1)	735,000
利息	22
計	4,829,432

*1: 2022 年度会員数と同数としての概算。ただし学生一年会員を除く。

2. 支出の部	
科 目	予算
編集諸経費・謝金	
Journal of Protistology	100,000
原生生物	200,000
学会活性化委員会経費	200,000
庶務諸経費・謝金	50,000
会計諸経費・謝金	10,000
大会補助費	200,000
学会賞等経費	100,000
若手の会助成金	50,000
日本分類学会連合分担金	10,000
日本分類学会連合会議旅費 (2名分)	50,000
通信費 (サーバー利用料)	15,000
振替手数料	3,000
支出総計	988,000
次年度繰越金	3,841,432
計	4,829,432

2023 年度 日本原生生物学会特別会計（国際交流基金）予算案

1. 収入の部	
科 目	予算
前年度繰越金	571,716
寄附	-
利息	4
計	571,720

2. 支出の部	
科 目	予算
外国人招待者謝金	-
国際学会参加援助金	250,000
国際学会参加援助金振込手数料	-
支出総計	250,000
次年度繰越金	321,720
計	571,720

1. 収入の部	
科 目	予算
前年度繰越金	1,049,178
利息	10
計	1,049,188
2. 支出の部	
科 目	予算
	-
支出総計	0
次年度繰越金	1,049,188
計	1,049,188

2023 年度 日本原生生物学会特別会計（月井 雄二記念国際交流基金）予算案

1. 収入の部	
科 目	予算
前年度繰越金	9,248,552
寄附	-
利息	78
計	9,248,630
2. 支出の部	
科 目	予算
国際学会参加援助金	1,750,000
支出総計	1,750,000
次年度繰越金	7,498,630
計	9,248,630

その他

学会賞受賞者名一覧等

日本原生生物学会賞受賞者名

- 1991年 沼田 治 (筑波大学)
テトラヒメナの多機能タンパク質の研究
- 1992年 田邊 和裕 (大阪工業大学)
マラリア原虫の寄生に関する分子生物学的研究
- 1993年 彼谷 邦光 (国立環境研究所)
環境適応における脂質分子の役割
- 1994年 今井 壯一 (日本獣医畜産大学)
ルーメン内繊毛虫の分類学的研究
- 1995年 見上 一幸 (宮城教育大学)
ゾウリムシの二核性と核分化の研究
- 1996年 藤島 政博 (山口大学)
ゾウリムシとホロスポラの共生における宿主-共生生物間相互作用
(受賞者なし)
- 1997年 (受賞者なし)
- 1998年 芳賀 信幸 (石巻専修大学)
イマチユリン: 未熟期の分子機構
- 1999年 廣野 雅文 (東京大学)
クラミドモナスの非保存的アクチン
- 2000年 松岡 達臣 (高知大学)
繊毛虫ブレファリスマのキノン光センサーと光シグナリング
- 2001年 長澤 秀行 (帯広畜産大学)
トキソプラズマ感染に対する宿主免疫システム
- 2002年 春本 晃江 (奈良女子大学)
繊毛虫における細胞間相互作用
- 2003年 洲崎 敏伸 (神戸大学)
ユーグレナの細胞体変形運動
(受賞者なし)
- 2004年 (受賞者なし)
- 2005年 (受賞者なし)
- 2006年 (受賞者なし)
- 2007年 (受賞者なし)
- 2008年 (受賞者なし)
- 2009年 (受賞者なし)
- 2010年 岩本 政明 (情報通信研究機構)
テトラヒメナの大核と小核の核膜孔複合体タンパク質の研究
(受賞者なし)
- 2011年 (受賞者なし)
- 2012年 (受賞者なし)
- 2013年 (受賞者なし)
- 2014年 月井 雄二 (法政大学)
接合型の遺伝解析に基づくゾウリムシの種分化過程に関する研究

- 2015年 園部 誠司 (兵庫県立大学)
原生生物における運動の分子機構に関する研究
- 2016年 小林 富美恵 (杏林大学)
マラリア原虫感染に対する宿主免疫機構
- 2017年 児玉 有紀 (島根大学)
ミドリゾウリムシを用いた二次共生の成立機構の研究
- 2018年 島野 智之 (法政大学)
土壌環境を中心とした自由生活性の原生生物における種多様性及び生態の解明
- 2019年 永宗 喜三郎 (国立感染症研究所)
トキソプラズマの寄生戦略に関する分子細胞生物学的研究
(受賞者なし)
- 2020年 (受賞者なし)
- 2021年 細谷 浩史 (神奈川大学)
ミドリゾウリムシを用いた真核細胞間共生の成立機構
(受賞者なし)
- 2022年 (受賞者なし)

日本原生生物学会教育賞受賞者名

- 2016年 楠岡 泰 (琵琶湖博物館)
微小生物の魅力伝える琵琶湖博物館
(受賞者なし)
- 2017年 (受賞者なし)
- 2018年 (受賞者なし)
- 2019年 (受賞者なし)
- 2020年 盛下 勇
原生生物学の応用研究とその普及活動～原生動物と共に70年～
(受賞者なし)
- 2021年 (受賞者なし)
- 2022年 (受賞者なし)

日本原生生物学会奨励賞受賞者名

- 2004年 杉浦 真由美 (奈良女子大学)
繊毛虫ブレファリスマにおける接合誘導物質の分子生物学的研究
- 2005年 有川 幹彦 (奈良女子大学)
太陽虫の細胞質および核における Ca²⁺ 依存性収縮系の解析
(受賞者なし)
- 2006年 (受賞者なし)
- 2007年 西原 絵里 (東京医科歯科大学)
Amoeba proteus の収縮胞における水集積機構の研究
- 2008年 児玉 有紀 (筑波大学)
ミドリゾウリムシと共生クロレラの細胞内共生成立機構の研究

2009年	Kim Thi Phuong Oanh (Vietnam Academy of Science and Technology) Stop codon reassignment in ciliates: evidence for different modes of stop codon recognition by ciliate eRF1s 福田 康弘 (東北大学)	第6回	仙台市	昭和47年	樋渡 宏一
2010年	Nuclear proteins and chromosome structures of the ancestral dinoflagellate <i>Oxyrrhis marina</i> 保科 亮 (立命館大学)	第7回	奈良市	昭和48年	稲葉 文枝
2011年	ミドリゾウリムシ共生藻の分類学的研究 明松 隆彦 (ヨーク大学)	第8回	東京都	昭和49年	石井 圭一
2012年	織毛虫テトラヒメナのプログラム核死 (受賞者なし)	第9回	大阪市	昭和50年	高田 季久
2013年	(受賞者なし)	第10回	東京都	昭和51年	盛下 勇
2014年	西上 幸範 (京都大学)	第11回	岐阜市	昭和52年	野澤 義則
	試験管内再構築系を用いたアメーバ運動における細胞質ゾルーゲル変換機構に関する研究 (受賞者なし)	第12回	横浜市	昭和53年	斎藤 実
2015年	(受賞者なし)	第13回	吹田市	昭和54年	中林 敏夫
2016年	末友 靖隆 (岩国市マイクロ生物館) 原生物の認知度向上と教育分野への利活用	第14回	つくば市	昭和55年	渡辺 良雄
2017年	矢吹 彬憲 (海洋開発研究機構) 新規系統の発見と理解から読み解く真核生物の多様性と進化プロセス (受賞者なし)	第15回	広島市	昭和56年	重中 義信
2018年	ソン チホン (生理学研究所)	第16回	東京都	昭和57年	石井 俊雄
2019年	織毛虫ミドリゾウリムシにおける細胞内共生機構の解析	第17回	津市	昭和58年	安達 六郎
2020年	矢崎 裕規 (理化学研究所) 大規模配列データ解析による真核生物の進化・多様性の解明	第18回	東京都	昭和59年	浅見 敬三
2021年	久富 理 (山梨大学) 原生物の行動反応に関わる織毛運動の制御機構の研究	第19回	大分県	昭和60年	山高 里盛
2022年	十亀 陽一郎 (福島工業高等専門学校) 織毛虫 <i>Colpoda</i> の休眠シスト形成と環境ストレス耐性 仲村 康秀 (島根大学) 単細胞動物プランクトン (ファエオダリア類・放散虫類) の生態・系統分類に関するフィールド研究	第20回	東京都	昭和61年	小山 力
		第21回	山口市	昭和62年	星出 一巳
		第22回	つくば市	昭和63年	渡辺 良雄
		第8回	国際原生動物学会		
		第23回	つくば市	平成元年	樋渡 宏一
		第24回	長崎市	平成2年	神原 廣二
		第25回	伊勢原市	平成3年	金田 良雅
		第26回	奈良市	平成4年	菅沼 美子
		第27回	石巻市	平成5年	樋渡 宏一
		第28回	帯広市	平成6年	鈴木 直義
		第29回	小金井市	平成7年	鶴原 喬
		第30回	東広島市	平成8年	細谷 浩史
		第31回	水戸市	平成9年	三輪 五十二
		第32回	岐阜市	平成10年	野澤 義則
		第33回	仙台市	平成11年	渡辺 疆
		第34回	金沢市	平成12年	遠藤 浩
		第35回	神戸市	平成13年	洲崎 敏伸
		第36回	高知市	平成14年	松岡 達臣
		第37回	東京都	平成15年	今井 壯一
		第38回	山口市	平成16年	藤島 政博
		第39回	帯広市	平成17年	長澤 秀行
		第40回	神崎市	平成18年	高橋 忠夫
		第41回	富山市	平成19年	野口 宗憲
		第42回	つくば市	平成20年	沼田 治
		第43回	石巻市	平成21年	芳賀 信幸
		第44回	水戸市	平成22年	三輪 五十二
		第45回	奈良市	平成23年	春本 晃江
		第46回	姫路市	平成24年	園部 誠司
		第47回	東広島市	平成25年	細谷 浩史
		第48回	仙台市	平成26年	見上 一幸
		第49回	東京都	平成27年	八木田 健司
		第50回	岡山市	平成28年	安藤 元紀
		第51回	つくば市	平成29年	沼田 治
		第52回	松江市	平成30年	児玉 有紀
		第53回	水戸市	令和元年	北出 理
		第54回	オンライン	令和2年	洲崎 敏伸
		第54回	オンライン	令和3年	有川 幹彦
		第54回	東京都	令和4年	廣野 雅文

これまでの大会開催地及び大会長

	開催地	開催年度	大会長
第1回	小平市	昭和42年	藤田 濤吉
第2回	吹田市	昭和43年	猪木 正三
第3回	広島市	昭和44年	尾崎 佳正
第4回	東京都	昭和45年	松林 久吉
第5回	徳島市	昭和46年	尾崎 文雄

会長・副会長・各種委員・評議員一覧

(2023年7月18日現在)

会長：園部 誠司

副会長：堀 学

庶務：福田 康弘

庶務補佐：杉浦 真由美

会計：岩本 政明

会計補佐：明松 隆彦

編集委員会：

石田 正樹（編集委員長），島野 智之（英文誌編集長），岩本 政明（英文誌担当），上野 裕則（英文誌担当），永宗 喜三郎（英文誌担当），廣野 雅文（英文誌担当），矢吹 彬憲（和文誌編集長），内之宮 光紀（和文誌担当），柴田 あいか（和文誌担当），西上 幸範（HP担当），梁瀬 隆二（HP担当），福田 康弘

国際委員：

園部 誠司（会長），島野 智之，福田 康弘

学会賞等選考委員会：

沼田 治（委員長），小林 富美恵，細谷 浩史

学会活性化委員会：

保科 亮（委員長），北出 理，柴田 あいか，西上 幸範，矢崎 裕規

準会員・生物分譲サービス WG：園部 誠司（WG長），有川 幹彦，洲崎 敏伸，春本 晃江

ネットワーク委員会：

西上 幸範（委員長），越後谷 駿，杉浦 真由美，福田 康弘，矢崎 裕規，梁瀬 隆二

生物多様性会議委員：

島野 智之

学術会議担当委員：

細谷 浩史

選挙管理委員会：

小林 富美恵（委員長），沼田 治，野田 悟子，矢吹 彬憲

事務局：

園部 誠司（会長），堀 学（副会長），福田 康弘（庶務），杉浦 真由美（庶務補佐），岩本 政明（会計），明松 隆彦（会計補佐），石田 正樹（編集委員長）

評議員：

明松 隆彦，有川 幹彦，石田 正樹，岩本 政明，北出 理，島野 智之，杉浦 真由美，洲崎 敏伸，西上 幸範，沼田 治，廣野 雅文，福田 康弘，保科 亮，細谷 浩史，堀 学，矢吹 彬憲

監事：

児玉 有紀，永宗 喜三郎

事務局からのお知らせ

庶務 福田 康弘 (東北大学) ・ 庶務補佐 杉浦 真由美 (奈良女子大学)

会員各位，平素より学会活動に御協力をいただき，篤く御礼を申し上げます。会員向けメーリングリストでご案内しておりますが，本会では月井雄二国際会議参加促進支援金 (JSP Young Scientists Support Program by Yuji Tsukii Fund) を新たに設けました。これは，本会の名誉会員であった故月井雄二博士のご遺族の寄附によって設立された「月井雄二記念国際交流基金」

を活用した若手研究者育成事業です。本会の若手研究者が国際会議や海外の学術集会で研究発表を行うことを促すため，その参加に必要な費用の一部を支援します。詳細は，本会 HP にある募集要項 (http://protistology.jp/a_files/Tsukii_Bosyu_V2_202302028.pdf) をご覧ください。

編集委員会からのお知らせ

「原生生物」編集委員 ・ 内之宮 光紀 (電力中央研究所)

和文誌「原生生物」をお手に取っていただきありがとうございます。大会案内にありますように，本年の日本原生生物学会大会は 3 学会合同大会となっており，例年にも増して盛況が予想されます。普段の大会より多様な研究者と交流し，議論を深められましたら，是非とも弊誌に論文等をご投稿ください。皆様のご投稿を心よりお待ちしております。

次号，2023 年 12 月発刊予定の和文誌「原生生物」第 6 巻第 2 号に掲載する原稿の締め切りは，11 月上旬頃を予定しております。それに向けて，ぜひ原稿をご準備いただければ幸いです。

和文誌「原生生物」投稿規定は[こちら](#)

和文誌編集委員

原生生物編集委員長

矢吹 彬憲 (海洋研究開発機構)

柴田 あいか (筑波大学)

内之宮 光紀 (電力中央研究所)

編集委員長

石田 正樹 (奈良教育大学)

会費等振り込み先

郵便振替口座

郵便振替口座番号：01300-6-103583

加入者名：日本原生生物学会

銀行振り込み口座

ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店番：139 カナ店名：イチサンキュウテン（139店）

当座貯金 口座番号：0103583

受取人カナ氏名：ニホンケッ ンセイセイブツ カイ ツカイ

原生生物 (GENSEI-SEIBUTSU) 第6巻 第1号

2023年7月26日 発行

編集兼発行者 : 日本原生生物学会

発行所 : 日本原生生物学会

事務局 : 庶務担当 福田 康弘, 杉浦 真由美

E-mail: gajsp@protistology.jp

編集局 : 〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町 2-15

海洋研究開発機構 生態研究棟内

「原生生物」編集長：矢吹 彬憲

Tel/Fax: 046-867-9498/046-867-9525

E-mail: yabukia@jamstec.go.jp
